

# 林業ぐんま



## 目次

- 普及コーナー..... 1
- ・チェインソーマンの快挙
- 「YouTube動画紹介
- 直滑降ストリームとなりの始動人」
- ・第2回ぐんま木造建築
- 未来マイスター養成講座
- 林政情報..... 3
- ・さのこ類の安全確認について
- ・第七十五回県植樹祭
- 各地のたより..... 5
- 三年ぶりの現地開催へ
- (渋川) 山林測量システム研修会の開催
- (西部) 「エイチワンの森」森林整備活動
- (利根沼田) タワーヤード現地視察会を実施
- (富岡) ラジコン操作式
- 油圧制御式集材機見学会
- (吾妻) 林業労働安全衛生の取組
- (桐生) 森林土木建設協会の森林整備活動
- (藤岡) 奥多野地域に森林空間を利用した
- 施設が2箇所オープン!
- 地域を担う人..... 10
- 菊池 真寛さん 桜井 勇樹さん
- 横山 大蔵さん
- 森の談話室..... 11
- 日本伐木チャンピオンシップに
- 下仁田町森林組合から出場
- 林業試験場から..... 12
- 皆伐再造林の低コスト化のための
- 工程分析調査
- トピックス..... 13
- ・あかぎ団の森づくり
- ・令和4年度 教育情報事業講習会を開催

# 秋

# 普及コーナー

## チェーンソーマンの快挙

YouTube動画紹介 直滑降ストリーム

となりの始動人

伐倒技術を競う全国大会「第4回日本伐木チャンピオンシップ2022」において、本県から出場した今井陽樹さん（「ひのきや」代表 藤岡市）と横山大蔵さん（「下仁田町森林組合」所属 下仁田町）が、それぞれ優勝と第3位に入賞し、2023年にエストニアで開催される「第34回世界伐木チャンピオンシップ」に日本代表として出場するという榮譽に輝きました。

日頃、色々と近県と比較される本県ですが、お二人の活躍により、人材では他県に勝るとも劣らないことが示されました。

そんなお二人と山本一太知事の対談の様子が群馬県公式YouTubeチャンネル「直滑降ストリーム」となりの始動人」で公開されています。

8月12日に前編が、8月19日に後編が配信され、今も視聴することができます。

前編では、お二人の紹介や伐木競技の様子が、後編では、世界大会への意気込み、林業への熱い思いが収録されています。

今大会について、今井さんは「過去最高に良い大会、お祭だった。明るく、皆がチェー

ンソーの技を見て楽しんでいた」と、横山さんは、「チェーンソーを通してできた仲間と和気藹々とした楽しい大会だった」と振り返られています。（後編5分頃）

また、山本知事からは「林業は不況にあるがやり方によっては成長産業になると思っている。林業に本気で取り組もうと思っっている。」と林業に対するお考えも伺うことができます。（後編4分頃）



収録前の様子

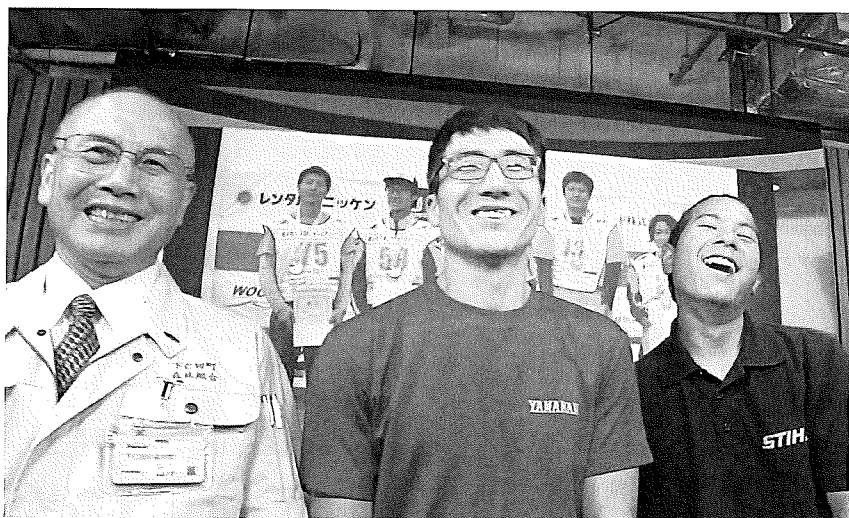
ぜひ、皆様にはこの動画をご覧いただき、チェーンソーの技で群馬から世界に挑戦するスゴい人がいることを、知っていただければと思います。



動画(前編)



動画(後編)



収録後、一緒に来ていた下仁田町森林組合長と

## 第2回ぐんま木造建築 未来マイスター養成講座

木造建築に興味を持つ学生を対象に開催

林業振興課では、将来建築士を目指している又は建築に興味がある高校生や大学生、専門学校生を対象とした木造建築講座を昨年から開催しています。第2回目となる今年度は、8月9日に座学を、8月24日には現地講座を開催し、22名の学生が参加しました。

座学については前橋工科大学を会場に行われ、木造建築の基礎として、前橋工科大学教授による木の住まいと暮らしについての講義、林業試験場職員による試験場の業務と木の特性について、また、中大規模木造建築を実際に手がけている設計士による様々な木造建築の違いについて学びました。

現地講座では、素材生産の現場や製材工場、林業試験場を見学しました。

最初に、素材生産の現場として、渋川市行幸田地内の間伐施業地を見学しました。現地では、高性能林業機械をフル活用した施業を間近で見学しました。また、間伐は木々の健全な成長に不可欠であることや、素材生産の段階で伐採された木々を品質や直径などを考慮し、様々な用途にあわせて生産していることを学びました。

続いて、群馬県森林組合連合会渋川県産材

センターに移動し、群馬県の森林の現状や県産木材が様々な用途へ利用されていることなどを学び、その後施設内の製材作業を見学しました。

最後に、林業試験場に移動し、スギのツリーバイフォー材に乗ってヤング係数の違いによる変形量を実感してもらい、また、万能強度試験機による実大曲げ試験では、110年生のスギを試験体にヤング係数と強度を確認してもらいました。

参加者からは、的を射た質問が繰り返され、試験の意図を理解するとともに試験の重要性を学んでもらうことができました。

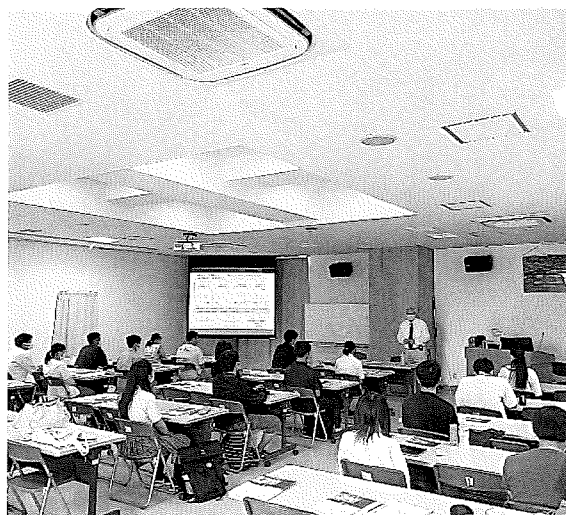
参加者から頂いた感想や意見を参考にし、木造建築や森林・林業、木材利用への関



ハーベスタの機能について説明を受ける参加者



ヤング係数の違いによる変形を体験



前橋工科大学での座学

心が高い人材の育成を目指し、今後も養成講座を継続して実施していきます。

# 林政情報

## きのこ類の安全確認について

### 栽培きのこ類

福島原発事故から11年が経過した現在も、県内では原木きのこ栽培などで放射性物質の影響が続いています。

県では、平成26年から生産者に対し「群馬県原木きのこの栽培管理に関する指導指針」遵守の徹底を指導しており、原木、ほだ木、きのこの各段階で厳格に検査を実施するなど、安全確保を第一に対策を進めています。

こうした中、原木乾しいたけについては、一部の市町村に対して出荷自粛を要請していますが、県が定めた条件を満たし、安全が確認された生産者について個別に自粛解除を進めており、現在3名が生産・出荷を再開しています。自粛解除を希望する方は最寄りの「環境」森林事務所へご相談ください。

### 野生きのこ類

山野に自生している野生きのこは、放射性物質の影響を受けやすいといわれています。食品の基準値である1キログラム当たり100ベクレル（以下 基準値）を超えるものを食べないようご注意ください。市町村によっては、住民持ち込み食品の放射性物質検査を

実施していますので、お住まいの市町村にお問い合わせください。

野生きのこの出荷・販売については、昨年度、新たにみどり市、中之条町、草津町、片品村、川場村が出荷制限地域に追加され、既に地域指定されている沼田市、安中市、長野原町、嬭恋村、高山村、東吾妻町、みなかみ町と併せて12市町村で出荷が制限されています。県のホームページ等で最新の情報をご確認ください。

また、これ以外の地域でも、出荷・販売する場合は、放射性物質検査を行って、安全確認と適正な表示をしてください。

また、インターネットオークションやフリーマーケットアプリ等で、基準値を超える野生きのこ・山菜類が販売された事例が本県をはじめ複数の県で発生しています。

このようなネット取引に対しては、厚生労働省が抜き打ち検査を実施しているほか市民団体が監視を強化しています。安全確認を行わず、安易に出品や購入をしないようにしてください。さらに、野生きのこによ

る食中毒に注意が必要です。野生きのこは種類が多く、食用種に似た有毒なもの、名もない未知のものなど食中毒や死亡事故を起こす危険なきのこが比較的身近に生息しています。確実に食用と判断できないきのこは、「採らない」、「食べない」、「人にあげない」を徹底して事故を防止してください。

なお、群馬県林業試験場では、野生きのこの鑑定を実施しています。鑑定を依頼する際は、必ず事前に担当者に電話連絡してください。

住所 北群馬郡榛東村大字新井2935  
電話 (027) 373-2300



チチタケ【食用】

きのこを傷つけると白い乳液が出ることから乳茸と名付けられました。

放射性物質の影響を受けやすい種類とされています。

## 第七十五回県植樹祭 三年ぶりの現地開催へ

群馬県植樹祭は、戦争で荒廃した県土を緑に復興する郷土緑化運動の一つとして、昭和二十一年に桐生市において第一回が開催されました。以来、毎年郷土の緑の大切さを広く普及啓発する県民運動の中心的な行事として、県内各市町村を持ち回りしながら春の緑化運動推進期間中に実施してきました。

しかし、新型コロナウイルス感染拡大のため、渋川市で開催予定だった第七十四回は、令和二年度は延期、令和三年度は参加型の開催はせず、事前収録の動画配信による開催となりました。

今回で第七十五回目となる令和四年度は、甘楽郡南牧村で十月二十二日（土）に三年ぶりの現地開催となります。新型コロナウイルス感染拡大のため、三百五十人に参加人数を制限し、従来より小規模となります。

『緑植え わたしもできたSDGs』をテーマに、緑づくりと、森林を守り・育み・活かすことの大切さを発信し、緑豊かな郷土づくりを推進します。

（森林保全課）



第73回(みどり市)現地開催の様子



第74回(渋川市)動画配信の様子

緑の祭典

みどりの月間 4月1日～5月31日  
4月15日～5月14日

緑化運動推進期間

ポスター企画 群馬県立南牧中学校 群馬 結香さん / 緑化運動推進 みどり市立立野小学校 群馬 夏菜さん

緑植え わたしもできた SDGs

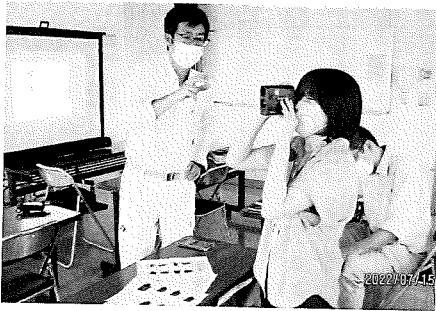
群馬県 市町村 公益社団法人 群馬県緑化推進委員会

令和4年度緑化運動ポスター

# の便り。

## 山林測量システム 研修会の開催

渋川森林事務所では山林測量システム研修会を開催しました。研修は、渋川合同庁舎で3回開催し、県内森林事務所と管内森林組合から延べ11名の参加者が操作説明を受けて構内で測量を実施しました。研修で使用したのは、「山守コンパス測量システム」（晃洋設計測量製／栃木県足利市）で、渋川森林事務所が導入しました。システムは、「Android」対応アプリ「山守コンパス」が核となり、モバイル端末（シャープ製スマートフォン）、デジタルコンパス「TruePulse360R」（レーザーテクノロジー社製／米国）及び山守コンパス測量作図ソフト（晃洋設計測量製）などで構成されています。



研修状況

このシステムを使ってみた感想には、「デジタルコンパスの初期設定（校正）は難しそうに感じましたが、マニュアルを見ながら何度かやれば大丈夫そう。」「計測結果が随時ス



赤城南麓森林組合  
事業課主任 星野英史さん

マホに表示されていくので安心感がある。」「作図ソフトがエクセルベースで使いやすい。」などがありました。

また、研修に参加した赤城南麓森林組合の技術員星野さんは、「普段使っているデジタルコンパスより軽く、エクセルによる測量成果の取りまとめが効率的で良い。」と話していました。

デジタルコンパスを活用した山林測量システムは、既に多くの林業事業体に導入されていると思いますが、導入検討時の類似品との比較では、初期費用が比較的安価で毎年のライセンスト料も必要無く、機能や耐久性も遜色ないと認められ、林業事業体では2台目以降の導入に適しているのではないかと思われました。

また、メーカーの晃洋設計測量社は「グループ会社が経営する山林のデジタルデータ化が効率的に行われるように開発した。山を守る人が本場に必要『あったら良いな』を詰め込んだ商品」と標榜しています。次の測量システム導入を検討していたら、比較対象として候補に加えてみてはいかがでしょうか。

（渋川森林事務所通信員）

## 「エイチワンの森」 森林整備活動

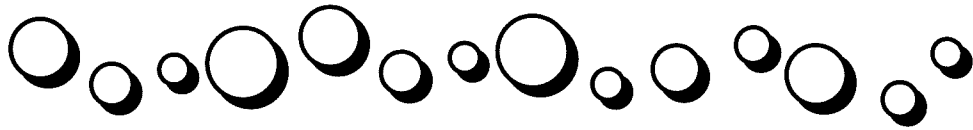
去る5月28日（土）、高崎市箕郷町松之沢地内の県有林で、株式会社エイチワンの社員19名による森林整備活動が行われました。

この森林整備活動は、社会貢献の一環として、森林の保全・整備に取り組むことに賛同し、寄付をいただいた企業と協定を結び、群馬県と連携を図りながら健全な森林づくりを進めていくものです。

株式会社エイチワンは、平成26年に県と協定を結び、年2回の森林整備活動を行ってきました。しかし、コロナウイルス感染拡大防止の観点から令和2年より活動を休止していました。



今年は参加人数の制限及び感染防止対策に取り組むことで、開催することになりました。今回の作業メニューは、看板周辺の草刈りとヒノキ林の枯れ枝の除去を行いました。作業開



始前に、枝打ちの目的や適期についての説明を受け、実際に高枝ノコギリで枯れ枝を切り落としました。参加者の中には入社2年目



の若い社員もあり、「山は眺めることしかなく、林の中に入るのは初めてで、新鮮です。」と感想をおっしゃっていました。今回の活動も、けがやトラブルは無く作業を終えることができました。森の看板周辺もきれいになり、枯れ枝の処理されたヒノキ林の見栄えも変わっていました。このような森林整備活動を通じて、森林に興味・関心を持ち、地域の森林の役割について考えてもらうきっかけになれば幸いです。

今回の秋の森林整備活動では、伐採の見学や事前に倒した木の枝払い、玉切りを計画しています。今回、参加された皆様には、再び元気に秋の活動にご参加くださることを願っています。

(西部環境森林事務所通信員)

## タワヤーダ現地視察会を実施

本年度、県では「林業の競争力強化」を重点プロジェクトの1つとして掲げており、その中で「低コスト林業システムへの転換」を川上の取組みとして位置付けています。

効率的な作業を行うために、これまで路網整備や高性能林業機械の導入・改良が進められてきました。しかし、今後は路網整備が比較的困難な奥地林の急傾斜地における間伐や皆伐、再造林等の森林施業も必要となることから、架線系作業システムによる効率的な施業は避けて通れない課題です。このため、林業振興課では今年度利根沼田森林組合に実証事業を委託し、タワヤーダによる集材コスト等の検証を行っています。



この事業を広く知ってもらうため、令和4年8月24日(水)、みなかみ町カルチャーセンター及びみなかみ町藤原にて、「タワヤーダ現地視察会(民国連携)」を開催し

ました。この日は、実証に至るまでの経緯を林業振興課職員が説明したほか、タワヤーダの仕組を販売元である緑産株式会社が説明。その後、スギの皆伐現場で実際の作業を見学しました。参加者は森林組合や素材生産業者、市町村、森林管理署員など約80名で、参加者の多くがタワヤーダによる集材作業を実際に見るのは初めてでした。



タワヤーダの作業の様子は先山側と元山側の2班に分かれて見学。伐採した材は搬機により全木集材され、引き上げ先で待つハーベスタによって次々と造材されます。作業を見たあとの質疑応答では、時間あたりの生産性や燃費など、実際の稼働を想定した質問が参加者から出されていました。

タワヤーダを使用した架線系作業システムの導入には、架設場所や土場の確保等の多くの課題がありますが、この実証を契機として、架線集材への理解と取り組みが進むことが期待されます。

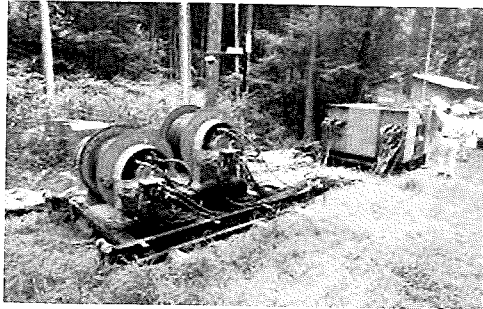
(利根沼田環境森林事務所通信員)

# の便り。

## ラジコン操作式油圧制御式集材機見学会

令和四年八月三日、長野県伊那市の信州大学演習林にて(株)前田製作所が開発した完全油圧制御式の集材機を見学してきました。

今回の見学会は急傾斜地が多い南牧村の森林整備を進めるため架線集材を一つの手段と考え、南牧村、南牧村森林組合、富岡森林事務所の普及職員あわせて十名が参加しました。



完全油圧制御式集材機

二百m程度の実習用設備があり、一通りの操作が可能でした。実際の集材作業は、ラジコンを使った無線操作となっており、二本のレバー

と二つのダイヤルによる直感的な操作で、早期の習得が可能と感じました。先山で吊り荷の状態を直接確認しながら操作できるので専用のオペレータを省きつつ、造材作業と荷掛作業の二名での作業が可能となっています。また、登録した地点への搬器自動走行機能も備わっているため、操作時間の削減が図られています。

三胴式集材機の利用は皆伐施業が中心で、五〜十畝の事業面積が有利であり、二百mを超える運搬距離では車両運搬よりも生産性が高まる傾向にあります。

導入への課題として、現状、機械本体は受注生産で一台、六千万円程度となるため相応な事業地の確保が必要となります。今後、路網の届かない急傾斜地での森林整備に欠かせ



ラジコン操作中の様子

ない架線系作業ですが、その実現に向けて索張研修等、人材育成、確保等の課題にも取り組んでいきたいと思えます。

(富岡森林事務所通信員)

## 林業労働安全衛生の取組

令和四年八月十八日に吾妻森林組合による技術力向上研修会が開催されました。

吾妻森林組合では平成十七年の合併後の経営悪化、労働災害の多発による「安全管理特別指導事業場」の指定といった危機的な状況を打開するため、「安全への取り組み」などの改革をスタートさせました。

平成十七年から進めていた作業手順書による組合内の作業方法の統一等の取り組みに加え、更なる技術の向上と作業効率、安全性の向上を図るため、目立てや伐木、造材など、毎年テーマを設定した研修を平成二十一年に始められました。

令和四年度は今までの取組の意義を改めて確認し、刃物の整備不良による生産性の低下や体に対する負担の増加を防ぐため、研修を始めた当時と同様の「30枚刃(笹刈刃)の目立て状況確認と検証」、「チェーンソーの目立て状況確認と試し切り」をテーマに開催されました。

当日は、土谷隆廣総括班長、土屋守男総括班長を講師として、全ての作業班員が刈刃とチェーンソーを持参し組合事務所集まり、普段作業で使用し、目立てを行った刈刃とソーチェーンを両総括班長が点検する形で進



# 各地

められました。

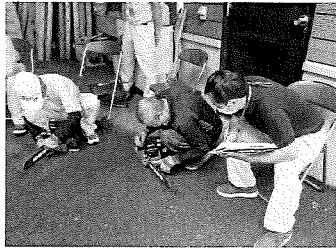
吾妻森林組合では作業効率や安全性を考慮し、笹刈刃を使用しており、刈刃の点検では、目立ての状況やアサリの出し方等について、刈刃を手にとって確認し、修正するべき点等について直接説明していました。

チェーンソーの点検では、ソーチェーンの動きや目立ての角度等を確認した後、目立ての状況による切断面の違い等について、試し切りにより確認しました。

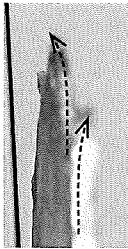
全ての作業終了後、土谷総括班長からは、「初めての研修会の時と比べてよくなっている。」、土屋総括班長からは「目立ては基本的な作業であり、継続して取組んでいただきたい。」と総括がありました。

研修会に同席させていただき、労働安全衛生の基本や継続した取組みの重要性を改めて認識しました。

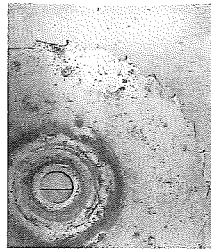
(吾妻環境森林事務所通信員)



ソーチェーンの確認



アサリ

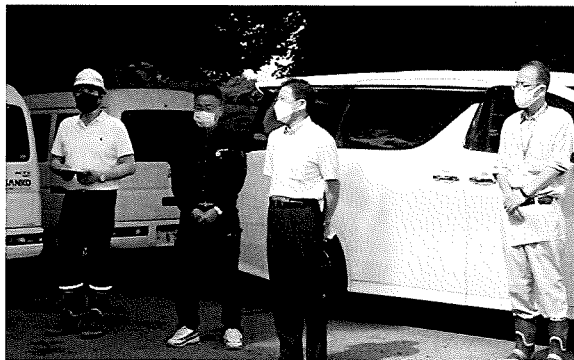


笹刈刃

## 森林土木建設協会の 森林整備活動

7月28日(木)、みどり市笠懸町阿佐美の琴平山及び岩宿遺跡周辺の市有林で、群馬県森林土木建設協会による森林整備活動が実施されました。協会に所属する企業から四十五名が参加し、刈り払い機や鎌を使って下草の刈り払いなどを行いました。

開会式には、みどり市長、桐生森林事務所長が出席し、十一年に及ぶボランティア活動へのお礼と励ましを伝え、参加者全員で記念写真を撮影した後、二班に分かれ作業を行いました。琴平山は広葉樹林に覆われ、林床には下草やササ類、低木が繁茂しています。



みどり市長の挨拶

およそ2時間の活動で、林内の歩道は歩きやすく整備され、景観もすっきり整えられました。この区域にある岩



作業風景

宿遺跡は、民間考古学者の相沢忠洋氏によつて発見された岩宿時代(旧石器時代)を代表する遺跡です。また、

近くの稲荷山のカタクリ群生地や鹿の川沼のサクラ並木など季節の見どころに恵まれ、博物館や温泉施設などの施設も充実しており、老若男女が気軽に楽しめる場所となっています。

森林土木建設協会は、日頃から森林土木工事の施工管理、自然災害発生時の警戒活動、復旧作業の取組など地域の安全安心に貢献いただいています。これに加え、県内各地で企業参加の森林づくりによる森林整備活動を実施しており、当管内では他に桐生市菱町の市有林で活動しています。今後もますますの活躍を祈念します。

(桐生森林事務所通信員)

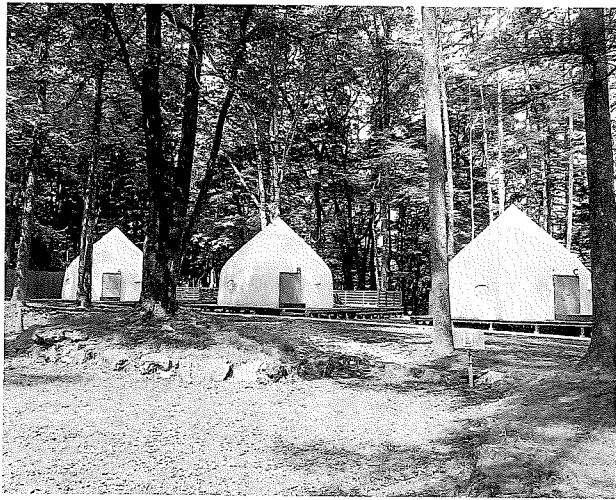
# 各地の便り

## 奥多野地域に森林空間を利用した施設が2箇所オープン!

令和4年夏、上野村と神流町に森林空間を利用したリクリエーション施設が続けてオープンしました。

上野村では、まほーばの森や不二洞、スカイブリッジ、フォレストアドベンチャーなどがある天空回廊エリアに8月1日、まほーばの森インスタントハウス（ドーム型のグランピング施設）がオープン。

施設6棟のうち5棟は2人用、1棟は4人用の中には高級ベッドやソファが置かれ空調設備や冷蔵庫なども完備し、森の中で快適



に過ごせるよう設備が整っています。

食事は外のデッキでのイノブタや牛ロースなどのバーベキューか、向屋温泉ヴィラせせらぎのディナープランも選択できます。

8月中の土日はほぼ満室状態で夏休み中の稼働率は約70%、9月、10月の土日も既にかなりの予約が入っており、客層は今のところ若いカップルや小さい子供連れのファミリー層が中心のようです。

料金はシーズンや人数で異なり、素泊まりで7,700円からと若干高めですが、周辺のアクティビティも充実しており、子供連れでも1日中楽しむことができます。上野村の清涼な森の空気の中でゆったりとくつろぎの時間を過ごすのも良いかもしれません。

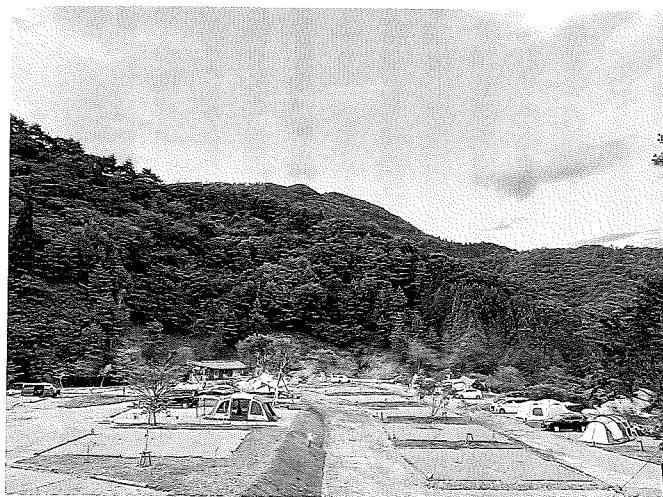
神流町では、かつてのみかほ高原荘の跡地に天空の森みかほ高原オートキャンプ場が9月1日オープンしました。

全てがオートサイトで10m×10mのサイトが26区画、電源付きサイトが8区画、車が2台止められるワイドサイトが4区画、ベットと一緒に利用できるドギーサイトが3区画、お湯の出る炊事場やシャワールームなども整備されています。

料金はシーズンで異なりますが、電源なしのオートサイトが5,000円からとなっており、9月中の土日は予約がいっぱいの状況で、早くもリピーターの方もいらつしやるそ

うです。

標高940mの高原のキャンプ場からは御荷鉾山系の大自然や秩父方面の山々が見渡せ

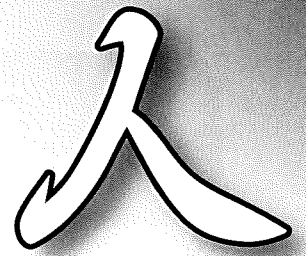


ます。9月の連休中には田村町長自ら焼きまんじゅうや地元産の芋「インカの目覚め」を配布して利用者にサービスしたそうです。町長の頭の中にはいろいろなアイデアがあって、まだまだこれから楽しいイベントや企画が期待できそうです。

上野村も神流町も木材だけでなく森林空間も含めた森林資源を最大限活用して地域の振興を図っていかうと努力しています。

(藤岡森林事務所通信員)

# 地域を担う



わたらせ森林組合

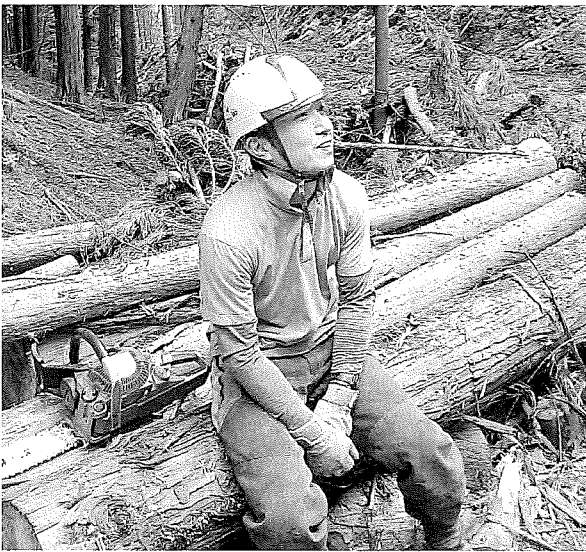
菊池 真寛さん

一 趣 味

キャンプ、登山、バックカントリー

二 今後の抱負

緑の雇用の三年間を終え、林業4年目を迎えています。出来ることが増え、日々成長していることに喜びを感じています。これからは、技術の精度を高め、安全により一層注意して作業をしていきたいと思っています。  
仕事とプライベートを充実させつつ健康第一で、これからも林業を続けていきたいと考えています。



わたらせ森林組合

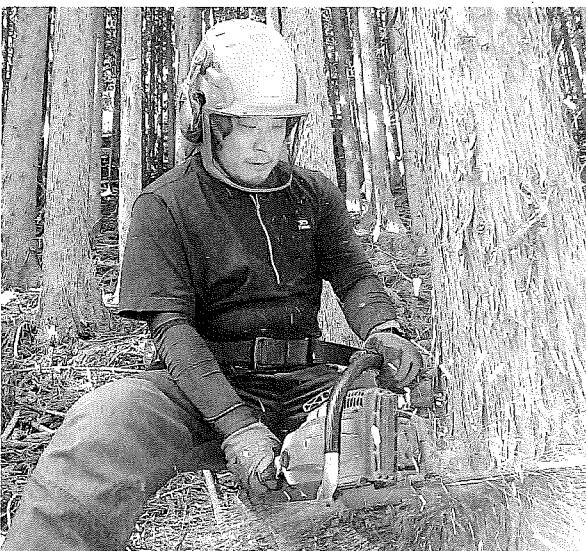
桜井 勇樹さん

一 趣 味

バイク、釣り

二 今後の抱負

三年間の林業作業士研修を修了し、今年度より、いち作業士として就業しています。日々の作業中に目にする獣害の被害による立ち枯れの多さを目の当たりにし、知識や技術の向上と合わせ狩猟免許の取得を考えています。



下仁田町森林組合

横山 大蔵さん

一 趣 味

ジムニー乗り

二 今後の抱負

国内の林業従事者として一つの節目であるFWが終了しました。多くの事を学び経験しましたが、まだまだ学ぶことが多く、実力不足を感じています。これからも先輩方を見て、立派な山師を目指します。



# 森の談話室

## 日本伐木チャンピオンシップに 下仁田町森林組合から出場

今年五月に開催された「第4回日本木材チャンピオンシップ（以下、JLC）」に下仁田町森林組合から、プロフェッショナルクラスで出場した横山大蔵さん、喜多明さん、中林悠平さんの3名にお話を伺いました。

JLCとは、林業技術及び安全作業意識の向上、林業の社会的地位向上、林業関係者・NPO等の森づくりへの積極的な参加、新規林業就業者数の拡大等を目的として、全国森林組合連合会が開催しています。

1. 伐倒競技
2. ソーチェン着脱競技
3. 丸太合せ輪切り競技
4. 接地丸太輪切り競技
5. 枝払い競技



伐倒競技

### 第4回JLC大会

令和四年五月二十一日から二十二日、青森県青森市（モヤヒルズ）地内において開催されました。

喜多明さんは平成二十一年から、中林悠平さんは翌年の平成二十二年から下仁田町森林組合に勤められ、お二人とも林業従事者となつて十年以上の現場経験があります。

また、横山大蔵さんは、平成三十年から林業従事者となり、令和二年から下仁田町森林組合に勤務されております。

喜多さんと中林さんは、以前群馬県で開催された群馬県林業技能競技会に参加され、お二人とも、おしくも二位、優勝出来なかったことから悔しい思いがあり、リベンジをしたいと言うことで競技に興味を持ち、練習を重ねることで上達と全国の競技仲間との交流に、楽しみを感じるようになったとのことでした。横山さんは大学時代からこの競技に興味を持ち、競技に参加することが楽しいとのことでありました。

競技で実施する作業内容と仕事についての関係を伺ったところ、競技で競う安全性と正確性は仕事に繋がっており、木を伐れることも楽しく、仕事が楽しいとのことでありました。JLCに参加した感想について伺ったところ、喜多さんは練習不足で思うように出来なかった。次はもっと準備して挑戦したい。中林さんは練習したことが本番で発揮出来ず、今回は成果を出したいとの意気込みでした。横山さんは出だしに集中力に欠けて悪かったが、終盤で調子が良くなり、良い結果が出せて嬉しかったとのことでした。三人とも今回の大会で、久しぶりに全国の仲間と再会できて、楽しいひとときが過ごせたとのことでした。

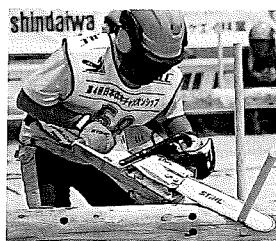
なお、伐木作業や林業に興味があり、JLCに挑戦してみたい方、一緒にチャレンジしたい方を募集しているとのことでした。

最後に、総合成績三位の横山さんは、ひのきや（藤岡市）の今井陽樹さんとともに、令和五年四月エストニアで開催される世界大会の出場権を獲得しております。日本代表として、ご健闘されることを期待しております。

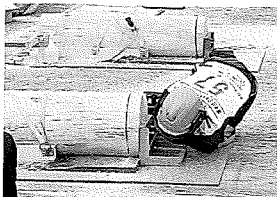
（富岡森林事務所通信員）



左から喜多さん、中林さん、横山さん



枝払い競技



接地丸太輪切り競技



ソーチェン着脱競技



丸太合せ輪切り競技

# 皆伐再造林の低コスト化のための工程分析調査

林業試験場では、林政課と協力して「工程分析調査」を進めています。これは、皆伐再造林を低コストで効率的に進めるための実証試験として、森林組合などの協力を得て、従来から行われている方法の一部を変更し、どの程度効率化することができるのかを試験的に取り組むものです。今回は初期保育のコストを下げるため、植え付け・下刈り部分の作業方法を変更した事例を報告します。

下刈りコストを低減化する方法として、自走式草刈機を使用した除草試験を行っていません。皆伐再造林地では、多数の切り株があり、草刈機による下刈り作業の妨げとなります。さらに、切り株を避けて植栽すると、下草が繁茂した状態では、苗木の位置が分からず、効率の低下や誤伐が生じやすくなります。本試験では、まず植え付け時に切り株の間に2m幅の直線を確保できる空間を探し、イボ竹支柱と細紐で中心線を設定しました。その線下にコンテナ苗を植えることで、機械による除草作業ができるラインを確保しました(図1)。除草作業には、刈り幅1mのハンマーナイフモアを使用し、ラインを往復して2m幅を除草しました。植え付け時に除草するラインを確保しておくことで、下草が繁茂した状態でも苗木の位置が確認できるため、誤伐を減らすことができます。

一方、皆伐地では切り株が点在しているた

め、2m幅の直線空間を設定できない場所があります。そうした場所では、植え付け時に防草シート(1m四方)を設置し、中心にコンテナ苗を植えることで、下刈り作業を軽減する方法をとりました。草刈機による除草と防草シートを組み合わせた結果、約1haの皆伐地での草刈りコストが従来の半分ほどに減らせる可能性が見えてきました。なお、本試験地における草刈機と防草シートの作業比率は約4:6でした。

皆伐再造林地が増加し管理面積が増えてきた現状において、初期保育の下刈りの負担が重くなっています。下刈りの効率化は、コスト低減効果だけでなく木材生産量を増やすことにもつながるため、この取り組みの成果が期待されます。また、刈払機に頼らない除草作業は肉体的な負担が軽減でき、女性でも下刈りの作業が可能となるため、林業従事者が不足する現場では導入を進める必要がある技術と考えています。

このほか、工程分析調査では、当場で開発した獣害防止資材「単木柵」の作成・設置に係る工程調査やバックホーのアタッチメントを使用した除草作業等も予定しています。

(林業試験場企画・自然環境係森林科学係)



草刈機による除草後の様子



防草シートの設置状況

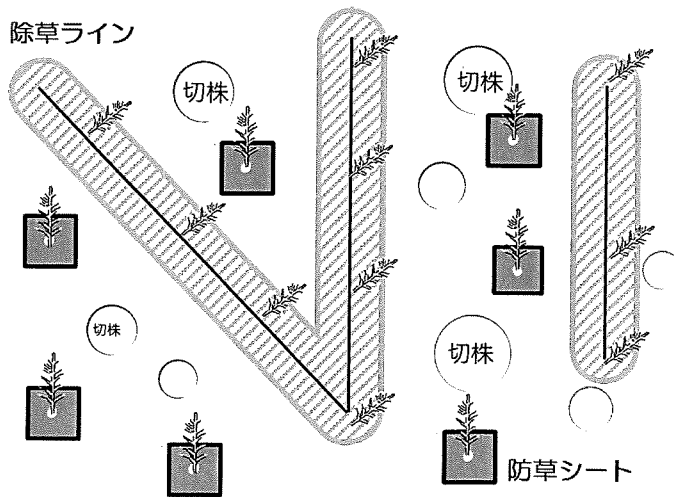


図1 草刈機による除草ライン(直線)と防草シート(四角)

# トピックス

## あかぎ団の森づくり

関東・山梨ブロック林業グループコンクールは、林業技術の向上や林業経営の発展のために、自主的な集団活動を行っている林業グループが、その活動成果を発表することによって、林業グループ相互の発展と資質の向上を図ることを目標として毎年開催されています。

今年度のコンクールには、皆様もご存じの群馬県ご当地アイドル「あかぎ団」が、赤城山で10年間に渡り行ってきたECO活動の成果(下表)を引つ提げ「あかぎ団森づくりの会」として参加されました。

表で見れば簡単な活動成果ですが、ファンの皆さんや指導者の皆さんと一緒に電気柵設置や忌避剤塗布等の経験をしており、こういったことをしたことがあるアイドルは、全国でも希少なのではないかと思われます。今回は、その活動をまとめた発表の一部を掲載いたします。

あかぎ団森づくりの会の活動に興味をもたれた方は、ぜひ、活動ブログ等をご覧いただき応援をお願いいたします。

### 発表資料よりまとめ(全文)

10年間の植林、保育活動を通して、普段見えていた山々が、多くの人の苦労の上に成り立っていることを感じていきます。「ただ作業すれば良い」ということはあつたかと思いますが、これからは「未来の理想とする森と人との在り方」から今何をすべきかを考えていきたい。また森づくりを一緒に進める皆さんの望んでいることをしっかりと理解しながら「森創りをデザイン」していければと思います。

多くの人との交流と関係性に「美しさ」が

存在するというお話をしましたがこれは、山を創る過程が美しいということでもありません。樹で繋がれた縁で結ばれたコミュニティを広げることで次世代の森を創造し、未来の地域創生の核になっていきたいと思えます。

コロナ禍で、子供たちを含め交流も少なくなってしまうましたが、あかぎ団の森が、山や森に全く無縁な人達を繋げ森づくりの素晴らしさを伝えることで、関わってくれた人達の原風景になってくれるようこれからも活動を続けていきたいと思えます。



下刈り作業の様子

### あかぎ団森づくりの会の活動

活動年	あかぎ団関係	講師	合計人数	活動内容
平成24年	450	-	450	ECO活動開始、赤城山動物について学習、食害防止ネット設置、清掃活動、登山用補助縄設置、0.51ha1000本植樹、下刈り、ツルきり
平成25年	450	-	450	所有者と協定締結、補植活動(食害・気象害発生)、下刈り、ツルきり
平成26年	450	-	450	補植作業、下刈り、ツルきり
平成27年	514	20	534	補植作業コナラ500本ヒノキ500本、電柵設置、除伐、下刈り、施肥、電柵回りの除草、除草剤散布、電柵補修
平成28年	540	21	561	補植作業、忌避剤塗布、施肥、下刈り、ツルきり、電柵点検、電柵設置
平成29年	450	20	470	補植作業コナラ250本ツツジ30本ヤブツバキ10本、下刈り、ツルきり
平成30年	356	17	373	補植作業コナラ20本ヒノキ20本、下刈り、ツルきり、下刈り
平成31年	320	22	342	補植作業ヤブツバキ10本ツツジ15本、森づくり講義(インストラクター会、森林組合)、下刈り、ツルきり
令和2年	138	11	149	下刈り、ツルきり、電柵点検(除草)
令和3年	168	14	182	下刈り、ツルきり、電柵点検(除草)、県林研主催『創!美しいもり!!プロジェクト講習参加
令和4年	254	21	275	下刈り、ツルきり、電柵点検(除草)、県林研主催『創!美しいもり!!プロジェクト(パネルディスカッション:パネル)
合計	4090	146	4236	

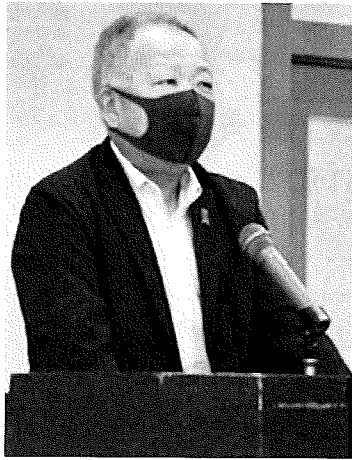
# トピックス

## 令和4年度群馬県林業改良普及協会 教育情報事業講習会を開催

令和4年7月28日、渋川市内の塚越屋七兵衛において、本年度の教育情報事業講習会を開催しました。

森林土木建設業の会員をはじめ関係者約50人が参加し、小山兼広環境森林部森林局長、山藤浩一県森林土木建設協会会長が来賓として出席くださいました。

はじめに関口功理事の開会宣言に続き、狩野浩志会長のあいさつ、来賓の小山局長、山藤会長のご祝辞をいただき、講習会が始まりました。

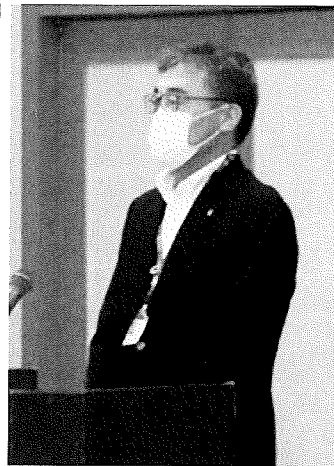


狩野会長 あいさつ

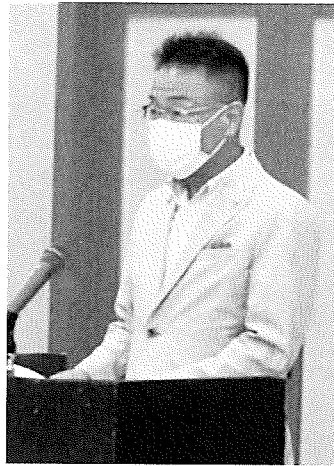
講習会では、東田林政課長から林政課の事業として、①森林の公益的機能 ②群馬県の森林の状況 ③群馬県森林・林業基本計画2021ー2030 ④皆伐・再造林の推進 ⑤森林獣害対策 ⑥林内路網整備及び令和4年度林道・作業道事業 ⑦森林環境税及び森

林環境譲与税 ⑧スマート林業の推進などについて詳しい説明がありました。

次に、高山林業振興課長より、過去に発生



祝辞 高山林業振興課長



祝辞 山藤会長

した林業関係労働災害の事例を通して、労働災害を防止するための具体的なアドバイスがありました。

最後は、黒沢森林保全課長から、①令和4年度治山事業 ②山地災害の発生状況 ③流域治水の取組 ④長寿命化対策 ⑤森林土木工事・森林整備の事故件数 ⑥森林土木事業の「働き方改革」の取組 ⑦ぐんま緑の県民基金事業などの概要について説明がありました。コロナ禍の中、多くの会員の参加とご協力

をいただき、無事に開催することができました。ご出席いただいた来賓の方々、講師の方々、並びに会員の皆様にご心より感謝いたします。



講習会の様子



講義の様子



# 西毛建設株式会社

代表取締役 勝島幸正

〒370-2606 群馬県甘楽郡下仁田町大字川井109-1  
TEL 0274 (82) 3366 FAX 0274 (82) 3566

(社)全国特定法面保護協会員

# 株式会社 椎坂建設

代表取締役 小林好



モルタル・コンクリート吹付工事・管工事・有効土壌菌工法・ほ装工事  
各種緑化工事・ロックネット工事・グラウト工事・一般土木工事・各種フレーム・桐生グリーンマット

〒378-0323 群馬県沼田市利根町大原1523-2  
TEL 0278-56-3407(代) FAX0278-56-2878 E-mail: yoshimi.k@shiisaka.co.jp

# 群馬土建工業株式会社

代表取締役 関口 功

本社 / 高崎市並榎町150 ☎(027)361-3031(代)  
箕郷営業所 / 高崎市箕郷町上芝450 ☎(027)371-3021(代)

ぐんまの木を使うことが、ぐんまの森林を守ります

10月は木材利用促進月間です！

木材の可能性を拓く、JAS構造材をご使用ください！



一般社団法人群馬県木材組合連合会

〒379-2131 前橋市西善町524-1

電話：027-266-8220

<http://www.gunma-wood.com/>

(令和4年度JAS構造材実証支援事業)

表紙の写真

みなかみ町藤原地内  
タワーヤード現地視察会